

フランスでの長期滞在報告

物理学専攻 博士課程 2年 加藤陽

2013年8月18日から11月14日までの3か月間、ALPSの長期海外派遣制度を利用し、フランスのCEA Saclayにおいて原子炉モニタリングに関する実験に参加した。

CEA Saclay (サクレー研究所) はパリ近郊に位置する原子力エネルギーなどエネルギー全般の研究を行う研究所であり、Thierry Lasserre 博士が率いる素粒子実験チームではニュートリノを利用して原子炉の運転状況をモニターするための検出器の開発が進められている (Nucifer 実験)。我々のグループが日本で進めている PANDA 実験も Nucifer 実験と同じく原子炉モニタリングを目的としたニュートリノ実験であるため、Lasserre 博士とは国際会議で話す機会があり、その際に3か月間研究に参加したい旨を伝えて了承を得た。

渡航前は初めての海外長期滞在に対する不安もあったが、実際に研究を始めてみるとよく知る分野の実験だったこともあり、ほとんど違和感無く研究に取り組むことができた。行き詰った時には親切な研究メンバーたちと議論を交わして解決し、無事3か月間のプログラムをやりきったことは今後の研究に向けての大きな自信になった。パリでの楽しい日常生活も含め、得難い経験をすることができた3か月間だった。

